

【春の法要】  
勤修されました

INFORMATION



去る四月十五日(日)共同墓地及びペット墓地の合同法要として【春の法要】が勤修されました。  
詳細は次号にてご紹介させていただきます。

同朋会コーナー

四月同朋会より

住職法話 『花瓶(かひん)と仏花(ぶつか)』

お仏壇のお飾りの中に花瓶(かひん)と仏花(ぶつか)があります。花瓶は生花を生けるためのものです。お飾りにはひとつひとつの意味がありますが、その中でこの生花を生けるということは私たちが限りある命を生きているのだ、ということをお願いしていただく姿を現しています。それぞれ花を咲かせ、やがて命を終えていく生花。その姿から私たちは命の在り方を教えていただくのです。また、花がご本尊の方でなく私たちの方を向いているのは、命の教えをいただいて受けとめ、手を合わせていくのは私なのだ、ということなのです。

前住職法話一部抜粋 『歎異抄第十六章』より

いくら「すべてを救いとうて捨てない阿弥陀のお心をいただいて生きていこう」といっても(そうは言ってもやはり良いことをする者が方が先に助かるにちがいない)と思うかもしれません。しかしそういうことではないのです。善悪を判断しがちな私たちの中にある「ものさし」ではかる心から離れることを「回心」といい、そのひるがえった心が「信心」なのです。「信」とは「受け容れる」こと。「心」とは「認識する・知る」こと。つまり「信心を得る」とは「自分自身を知る」こと、「わが身を認め、受け容れられるようになる」ということなのです。

次回 同朋会「案内

五月十二日(土)午後一時

茶菓代 500円

持ち物 (あれば) 勤行本

数珠 じゆず

どなたでも参加できます。

とくほう  
『徳泉寺報』後記

昨年までは桜に負けないぐらい見事な黄色い「ミモザ」が咲いていました。しかし昨年の長雨で木が弱り、残念ながら花芽をつけることができませんでした。

常に同じでないことを花から教えられた春でした。

今月のことば



『仏説(ぶっせつ)阿弥陀(あみだ)経(きょう)』の言葉。花は他の花と比べることをせず、別の花になろうとせず、自分の色の花を咲かせ、その色の光を放っている。SMAPの歌に「そうさ僕らも 世界に一つだけの花 一人ひとり違う種を持つ その花を咲かせることだけに 一生懸命になればいい」とあるように、私が私として輝ける世界を、私たちは願っているのかもしれない。